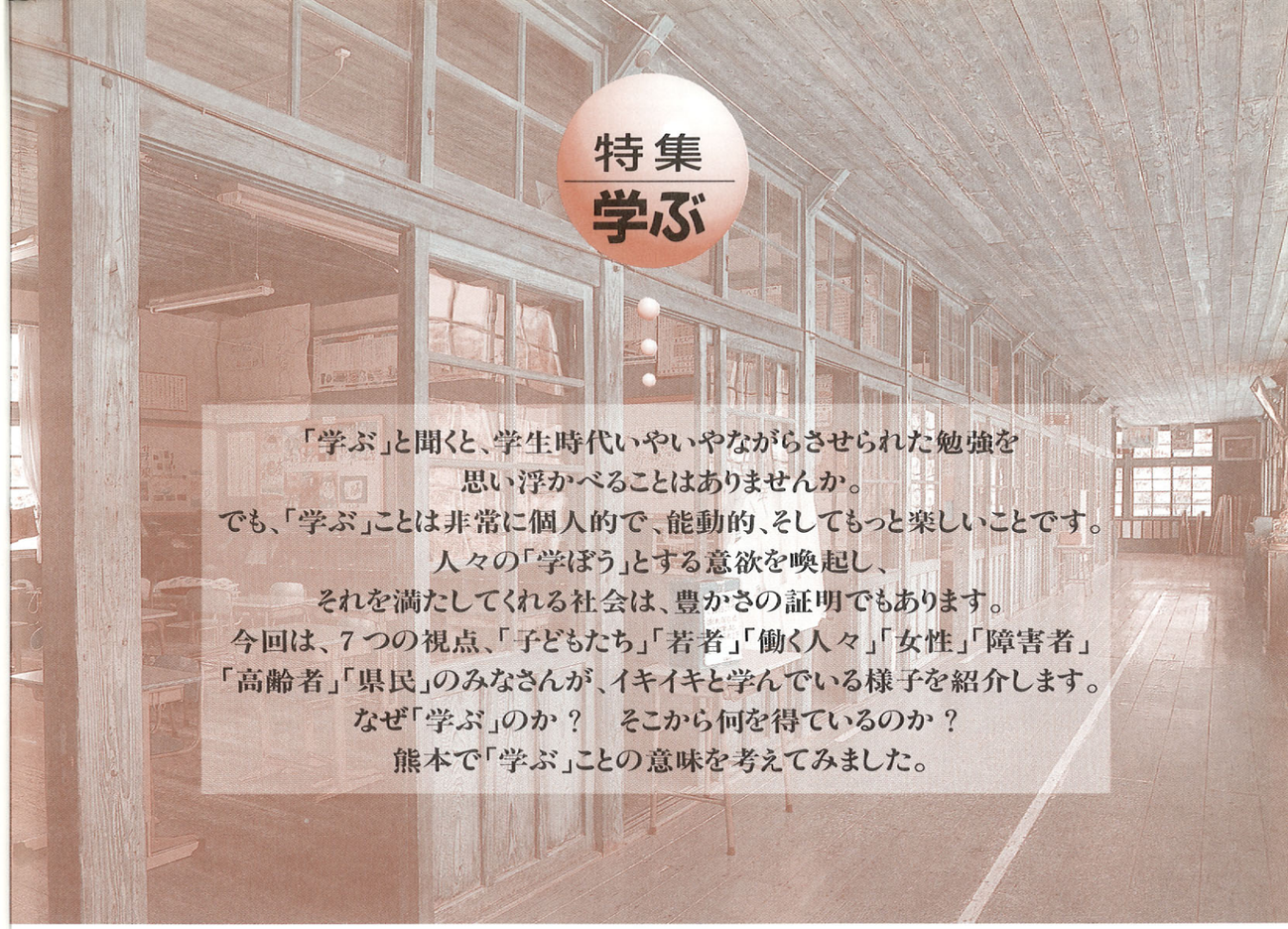


特集 学ぶ

「学ぶ」と聞くと、学生時代いやいやながらさせられた勉強を
思い浮かべることはありませんか。
でも、「学ぶ」ことは非常に個人的で、能動的、そしてもっと楽しいことです。
人々の「学ぼう」とする意欲を喚起し、
それを満たしてくれる社会は、豊かさの証明でもあります。
今回は、7つの視点、「子どもたち」「若者」「働く人々」「女性」「障害者」
「高齢者」「県民」のみなさんが、イキイキと学んでいる様子を紹介します。
なぜ「学ぶ」のか？　そこから何を得ているのか？
熊本で「学ぶ」ことの意味を考えてみました。

女性にとって

広く知識を吸収し
深く生活の場に生かす

環境問題は今すぐ始めなくっちゃ！学びながら実践する母親たち。

「PTAも一息ついた頃で、何の気なしに講演を聞きに行ったんです」。上野祥子さん―鹿本郡植木町―は、「ひまわり塾」との出合いをこのように語ってくれました。

「ひまわり塾」は地域の女性リーダーを育成する目的で始められた文化事業。昨年は塾の主催する講演を聞きに行くだけだった上野さんも、今年は入塾。かねてから関心のあった環境問題を学習したいと、「環境と女性」部会に入りました。この部会は牛乳パックの回収など各地域で環境問題に取り組んでいる女性たちの集まりで、月に一回、活動報告をして情報交換をします。

上野さんの活動は主にアルミ缶のリサイクル。上野さんが「複式学級・親の会」の藤井八千代さんへ呼びかけ、今では、同町すべての小・中学校の母親たちを中心に進められています。

まず、家庭で集めておいたアルミ缶を子どもに持たせ、学校に集めます。それを日曜日の一日、「複式学級・親の会」が回収し、整理して業者に渡します。ただのゴミがトラックいっぱいで約一万円に。益金は将来、授産施設をつくる資金に当てられます。

「女性も社会参加して自立すべき」。上野さんの心に残った講演での言葉は、資源のリサイクルという行動力に形を変えて、地域に根づいていきます。

親と子がいっしょに汗を流して、資源リサイクルの大切さを学ぶ。

高齢者にとって

よりよく
生きるために
学び続ける

人の一生は学びの連続。いろんな分野に挑戦する八二才の大学一年生。

上田市次（いちじ）さん（八二）は大学一年生。入学以来、無遅刻無欠席の優等生です。

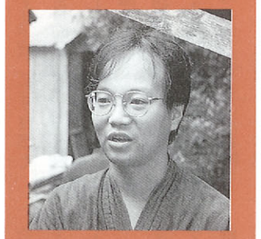
上田さんの通う「熊本さわやか長寿大学校」は、今年四月に開校しました。高齢者の社会活動を促進するために設立された㈶熊本さわやか長寿財団」の事業の一つです。学生さんは五十歳以上の百名（女性三十一名、男性六十九名）。上田さんはその中で最高齢の学生さんです。「もっと勉強したいと常々思っていました。家に閉じ籠もっていては、視野がますます狭くなってしまうでしょう」と上田さん。

大学では週一回二時間の講義があります。講義内容は「社交科」「旨（うま）科」「みどり科」「おしゃれ科」「元気科」の五つ。上田さんの好きな学科は栄養学や調理法を学ぶ「旨（うま）科」。「男が料理なんてと思っていましたが、大間違い。妻に先立たれた今は深刻な問題なんです」。上田さんは講義内容をノートにとり、帰ってから復習をします。実践は？「難しいですなー。ははは」

これから長寿大学に望むことは「学生時代のクラブ活動は人格形成に重要な役割を果たすでしょう。長寿大学にも、ぜひクラブ活動を設けてほしいですな」と上田さん。「一生をかけて打ち込めるものを探したい」。上田さんはまだ「学び」の途中です。

「忘れないようにちゃんとメモして、っと」。薬膳料理講習会風景。

若者にとって



自分で創造し
モノの
大切さを学ぶ

体を動かし働きかけることで、地域を学んでいく若者たち。

ふだんは静かな水俣市袋は大賑わい。学生さんたちが和紙づくりに挑戦しました。

金剝（かなむき）順平さん（二三）の主宰する「浮浪雲工房」は、今夏、十二人の国際ワークキャンプの参加者を受け入れました。国際ワークキャンプとは、国内外の若者たちが国内の六箇所をショートステイしながら、いろいろな学習をしていくもので、九州では水俣が初の開催地。水俣病患者と会ったり、資料館に行き水俣病について勉強したり、中尾山公園で草取りをしたり。そして工房では紙すきと糸紡ぎを体験しました。

金剝さんは、五年前、水俣病患者たちの授産場として工房を始めましたが、次第に和紙づくりの技に魅かれて、とうとう仕事にしてしまった人です。

「ぼくは、紙すきの仕事や水俣という土地に育ててもらったような気がするんです」。金剝さんの紙すきは機械化せず、時間と労力を使って作り上げます。苦労して作る紙だから大切に使おう。原料は無限ではないから、むやみに伐採すまい。紙すきを通してたくさんのことを学びました。

コウゾの繊維を黙々と叩く若者たち。金剝さんは作業の手順しか教えません。しかし、金剝さんがそうであったように、若者たちは汗した分だけ何かを学んでいくことでしょう。

トントン、トントン。木の皮を解きほぐす打解（だかい）作業。